

OB・OG会長の挨拶

—No Pain, No Gain—

第1期ゼミ長 白木 俊介

いつも、長文のエッセイを執筆していましたが、今回は簡潔なエッセイにしたいと思います。その理由を正直に話すならば…。それは、大きなチャレンジへと舵を切ったら、まったく、自分に余裕がなくなり、スケジュールもままならず、いっぱいいっぱいになっているからです(汗)。正直、自分でも、これ程、環境に適応するのが大変だとは思わなかった。その状況を近況報告として書かせていただきます。

◆チャレンジ1：シンガポール国立大学(NUS) MBA への入学

2015年8月からNUSのPart-time MBAコースに入学しました。Part-time MBAは6:00pm-9:00pmに授業が行われるMBAプログラムで、働きながら通学することができます。週2回の授業に出席した場合、約3年間かけて卒業となります。現在はSemester2が始まったばかり。シンガポール人、中国人、インド人、アジア各国からの優等生と一緒に、英語で議論しながら、必死に授業やグループワーク、プレゼンテーションをこなしている状況です。



著者が通われているシンガポール大学のビジネススクール

“Get out of your comfort zone” (居心地の良い場所から出る！)

「自分の殻を破れ！」と入学当初の集中講義で言われます。この言葉の意味は「自分にとって、どこが、居心地がよくて、そして、どこを知らず知らずのうちに逃げてしまっているのか」を、もう一度、省みて、チャレンジをするということ。常に、この授業ではチームやラーニングパートナーと自己評価と他者評価を行います。アジアの中で、再度、自分を捉えなおしてみると、本当に今までの自分がちっぽけに見えることもあります。インド人や中国人のアグレッシブさに比べると、日本人は本当におとなしく見られがち。その中で「日本人のユニークネスは何か？ 自分のキャラクターを最大限に発揮できることは何か？」と、自問自答しながら、グループワークやプレゼンテーションに取り組んでいます。

◆チャレンジ2：シンガポールのエージェンシーへの転職

MBAの入学と同時に、シンガポールにあるブランドエージェンシーに転職しました。経営者は日本人ですが、社員のほとんどは、シンガポール人。英語と日本語を使いながらの仕事環境です。以前の職と同じ広告業界なので、やっていけると思っていたのですが、国が変わると、仕事の進め方は大きく違うことを痛感します。また、仕事上の英語での議論のレベルが、MBAのクラスと求められるレベルが違うことも感じます。会議などの大人数での議論において英語で話をまとめていくことはとても難しく、今は上司に助けを借りながら仕事を進めています。早く自分で仕事を管理できるように必死に取り組んでいます。



NUS MBAの入学当初の Team Challenge

◆チャレンジ3：家族を残して、単身での生活

私のシンガポールでの生活が落ち着くまで、妻と娘（2歳）は東京で暮らし、私はシンガポールで単身での生活。妻も東京で働いているので、妻の母に子育てを助けてもらいながら、東京での生活を頑張ってもらっています。私は週末に Skype で娘と画面越しに「タッチ」と言って、手を合わせてコミュニケーションを取るのが精一杯。迷惑をかけている分、妻や娘がシンガポールに来た時には、家族で過ごす時間を少しでも増やしてあげたいと思います。

駆け足で、近況を報告させていただいたため、非常に拙い文章となってしまいましたが、少しでも、最近の生活が垣間見えれば幸いです。転職と MBA を同時にスタートする人は、同級生でも稀で、さらに、家族と離れて生活を始めるというトリプルチャレンジをしているのは、多分、私だけだと思います。本当に前代未聞のチャレンジをしてしまった（汗）。



年末、著者が一時帰国した際の写真—ご家族でクリスマスパーティー

今までの環境から抜けて新しいチャレンジをすることは、本当に勇気がいること。そして、新しいチャレンジは、思った以上に大変で、苦しいことを実感しています。特に家族がいると、自分だけの問題ではないですからね。でも、ふと、過去の自分を振り返ってみると、何か、大きく変化をしていることに気づかされる（何が変化しているのか、まだ理解できていませんが）。今は辛いからといって、混雑した日本の通勤電車で「このままで、いいのかなあ。」と悩んでいた過去の自分に戻りたいとは思わない。このチャレンジは、苦しいながらも、正解だったんだと、実感しています。

◆No Pain, No gain（苦勞なくして、得られるものはない。）

読んでいただいた方は、私がシンガポールでトンネルの中をさまよっている様が理解できたのではないのでしょうか。多分、今は、変化に伴うサナギの状態、自分の中で、混乱と闘いながら、すこしずつ、自分のやり方を、体得していく段階。そのために、苦勞や痛みを伴っているのも事実ですが、トンネルの向こう側に、光が見えてくることを信じて、頑張っていきたいと思います。きっと、来年のエッセイでは、もう少し、バージョンアップした私が描かれていると思います。是非、皆さん、期待しててください！

追伸：シンガポールに遊びに来たら、是非、励ましに来てください！ 余裕無いですが…（笑）。